

# 芦屋市行政改革 実績報告

[ 平成26年度 ]

平成27年9月



# 平成26年度 行政改革実績報告【目次】

※ 進捗状況について、「①実施済 ②実施(進行中) ③一部未実施 ④未実施」の4段階で表示しています。

I 安定・効率的で持続可能な行財政運営			進捗状況				新たな要素・課題
① 経営資源の有効活用と収入の確保			実施済	実施(進行中)	一部未実施	未実施	
1 公共施設のあり方の検討	1 保全計画の策定 アセットマネジメント(投資の平準化)の推進	・・・P. 2		○			○
	2 パイプライン施設のあり方の研究	・・・P. 3			○		
2 未利用土地の売却及び有効活用	3 未利用土地の売却及び有効活用			○			
	3 有料施設の利用の促進	・・・P. 5					
4 環境負荷の低減	4 収益性の高いイベント 企業とのタイアップ企画	・・・P. 8		○			
	5 施設利用率向上の観点からの 広報・ホームページでの宣伝のあり方	・・・P. 9					
5 財政運営の健全化	6 節電対策	・・・P. 10	○				
	7 低公害車導入 公用車利用の抑制	・・・P. 11		○			
	8 紙使用量の抑制	・・・P. 12		○			
6 収入確保対策	9 財政健全化への取組	・・・P. 13					
	10 国・県への財政要望 補助金・交付金等の活用	・・・P. 14		○			
7 未収金対策	11 分かりやすい財務情報の提供	・・・P. 15		○			
	12 使用料・手数料の見直し	・・・P. 16		○			
② 民間活力の導入	13 広告収入の拡大	・・・P. 17		○			
	14 私債権の徴収の強化 連帯保証人及び保証人への徴収	・・・P. 18		○			
8 指定管理者制度等の充実・検証(民間委託含む)	14 導入事前調査のあり方・非公募施設の見直し	・・・P. 19		○			
	14(1) 指定管理者制度導入[公営住宅]	・・・P. 20		○			
	14(2) 指定管理者制度導入検討[あしや温泉]	・・・P. 21		○			
	14(3) 指定管理者制度導入検討[市民会館・公民館]	・・・P. 22			○		
③ 事務事業の見直し	15 指定管理業務の外部による点検 (モニタリング・業務効率化・第三者評価)	・・・P. 23			○		
	9 PDCAサイクルの徹底	・・・P. 24		○			
④ 増加する医療費への対応	16 事務事業評価と施策評価の連携	・・・P. 25		○			
	10 医療費抑制	・・・P. 26		○			
	17 がん検診及び特定健康診査の受診率の向上	・・・P. 27		○			
	18 後発医薬品(ジェネリック医薬品)の活用	・・・P. 28		○			

II 組織の活性化と人材の育成			進捗状況				新たな要素・課題
① 組織の効率化・課題解決型の柔軟な組織体制			実施済	実施(進行中)	一部未実施	未実施	
11 給与の見直し	19 給与制度の見直し	・・・P. 20		○			
	20 非常勤委員報酬の見直し	・・・P. 21		○			
12 組織編成	21 組織体制の見直し	・・・P. 22		○			
	22 職員数・管理職ポストの適正化	・・・P. 23		○			
13 行政課題の進行管理	23 職務権限規程の見直し	・・・P. 24		○			
	24 行政課題の定期的な進行管理	・・・P. 25		○			
② 事務の効率化・職場の能率向上							
14 職場における能率向上	25 文書管理の適正化	・・・P. 26		○			
	26 業務標準化の推進	・・・P. 27		○			
15 会議運営の見直し	27 繁忙期の柔軟な職員シフト	・・・P. 28			○		
	28 福利厚生制度の見直し	・・・P. 29		○			
③ 職員の意識改革・能力開発	29 効率的な会議の運営 会議のルール化	・・・P. 30		○			
	16 職員の意識改革と能力開発	・・・P. 31		○			
17 人事評価の拡充	30 職員提案、一課一改善運動の見直し	・・・P. 32		○			
	31 政策立案型プロジェクトチームの設置	・・・P. 33		○			
18 多様な人材の確保	32 人材育成基本方針及び実施計画の見直し	・・・P. 34		○			
	33 人事評価の全職員への導入	・・・P. 35		○			
19 再任用職員の有効活用	34 人事評価の有効活用	・・・P. 36		○			○
	35 新規採用のあり方を見直し	・・・P. 37		○			
20 危機管理マネジメント体制の強化	36 再任用職員が活躍する仕組みづくりの検討	・・・P. 38		○			
	37 危機管理マネジメント体制の強化への取組	・・・P. 39		○			
III 市民から信頼される行政							
① 住民サービスの向上							
21 子育て支援の充実	38 子ども・子育て新システムの導入に向けての検討	・・・P. 40		○			
	22 地域活力の向上	・・・P. 41		○			
23 大学等との共同事業の充実	39 地域課題の解決の仕組みづくりの検討	・・・P. 42		○			
	40 産官学共同事業の拡大	・・・P. 43		○			
24 窓口業務の充実	41 繁忙期の土曜開庁・時間の延長	・・・P. 44		○			
	25 多様な納付手段の導入	・・・P. 45		○			
② 透明性の向上	42 コンビニ収納の導入	・・・P. 46		○			
	26 開かれた情報提供	・・・P. 47		○			
27 適切な情報公開の徹底	43 適切な情報公開の徹底	・・・P. 48		○			
	44 分かりやすい情報発信	・・・P. 49		○			

合計	1	41	5	0	2
----	---	----	---	---	---

# 平成26年度 行政改革実績報告

※ 進捗状況について、「①実施済 ②実施（進行中） ③一部未実施 ④未実施」の4段階で表示しています。

※ 「見直し計画」は年度末実施状況を踏まえて、計画を修正したもので、○印は既存計画の修正、●印は追加を示しています。

## I 安定・効率的で持続可能な行財政運営

### ① 経営資源の有効活用と収入の確保

1 公共施設のあり方の検討	保全計画の策定 アセットマネジメント（投資の平準化）の推進					
	所管課	建築課 政策推進課 財政課				
	取組内容	◆ 施設の維持管理（保全）にかかるコストを抑制すること及び投資の平準化を図るため、公共施設保全計画を策定し、施設の維持管理を行う。				
	1 実施年度	H24	H25	H26	H27	H28
	計画	○ 保全計画の策定 ○ 施設所管課、建築課、政策推進課、財政課で協議 ○ 予算化への調整				
見直し計画			● 市保有資産データの整備		● 総合管理計画策定	
26年度までの実施状況等	<p>【平成24年度～】</p> <p>◆ 平成24年12月に「公共施設の保全計画」を策定、公表し、それに基づき、予算編成時期までに各施設所管課のヒアリングを実施し、次年度 実施採択を行っている。</p> <p>◇ 【平成26年度】</p> <p>公共施設等総合管理計画の策定に向け、計画の基礎となる資産データの整備とその管理の枠組みを構築するため、各所管において個別管理されている資産台帳の問題点や課題の抽出、資産台帳の整備に向けた検討を目的とした「固定資産台帳の整備に係るプロジェクト・チーム」を平成26年6月に設置し、台帳管理状況や台帳雛形との整合性の調査を行った。</p>				26年度までの進捗状況	実施（進行中）
新たな要素・課題	◇ 平成26年4月に、総務大臣通知「公共施設等の総合かつ計画的な管理の推進について」が示され、各地方公共団体に対し、計画を策定するよう要請されている。国の指針を参考に、施設の現状等を含め、今後の施設管理に関する基本的な考え方を検討し、本市の保有する全施設を対象として平成28年度を目標に計画を策定していく。					

パイプライン施設のあり方の研究							
所 管 課		環境施設課					
取 組 内 容		◆ 老朽化したパイプライン施設について、施設維持管理の課題や問題点を整理し、その後、第三者による検討委員会を設置の上、あり方を検討する。					
2	実 施 年 度	H24	H25	H26	H27	H28	
	計 画	○ 存続・廃止の課題整理及び調査・研究		○ 市民アンケートの実施 ○ 第三者検討委員会で検討 ○ 廃棄物減量等推進審議会で審議	○ 方針決定 ○ 地元住民への説明		
見直し計画					○ 地元住民への説明・意見聴取	○ 廃棄物減量等推進審議会で審議	
26年度までの実施状況等		<p>【平成24年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ パイプライン施設の存続・廃止の課題整理・研究を行った。</li> <li>◆ 他自治体の事例について調査・研究を行った。</li> </ul> <p>【平成25年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 老朽化したパイプライン施設について、施設維持管理の課題や問題点を整理した。</li> <li>◆ 第三者検討委員会の設置に向けて準備を行った。</li> </ul> <p>【平成26年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第三者検討委員会を設置し、検討及び市民アンケートを行い、廃棄物減量等推進審議会や市議会（所管事務調査）に経過報告を行った。</li> </ul>				26年度までの進捗状況	一部未実施
2 未利用土地の売却及び有効活用							
所 管 課		用地管財課					
取 組 内 容		◆ 引き続き一般競争入札による売却を進めるとともに、遊休・未利用地の有効活用を図る。					
3	実 施 年 度	H24	H25	H26	H27	H28	
	計 画	○ 売却(予定) 4件 190,000千円	○ 可能なものについての実施の検討				
26年度までの実施状況等		<p>【平成24年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 売却予定4件中、一般競争入札で2件、大原町では隣接地所有者へ1件を売却した。  三條南町10番3(290.63㎡) 92,053,000円  三條南町10番5(245.56㎡) 51,070,000円  大原町285番地(14.10㎡) 1,574,300円  合 計 144,697,300円</li> <li>◆ 茶屋之町で24年8月に貸駐車場を開設。また、翠ヶ丘町では1物件を貸駐車場へ、1物件を法人の資材置場へと貸付を行った。  24年度賃貸料合計 3,693,934円</li> <li>◆ 【教育委員会社会教育部】  一部の社会教育関係施設の駐車場について24時間供用するため24年12月に設置管理条例を改正した。  24年度使用料収入等合計 2,328,700円(24時間供用としたことによる効果額)</li> </ul> <p>【平成25年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 売却予定5件中、一般競争入札で4件、津知町では隣接地所有者へ1件を売却した。  大榎町7番17(81.00㎡) 41,654,250円  大榎町7番21(84.30㎡) 43,351,275円  公光町1番3(136.54㎡) 66,990,000円  南宮町163番33(115.35㎡) 29,330,000円</li> </ul>				26年度までの進捗状況	実施(進行中)

- |  |                   |              |
|--|-------------------|--------------|
|  | 津知町174番6 (54.35㎡) | 12,000,000円  |
|  | 合 計               | 193,325,525円 |
- ◆ 引き続き、茶屋之町及び翠ヶ丘町で貸駐車場、翠ヶ丘町で資材置場へと貸付を行った。  
25年度賃貸料合計 4,830,884円
  - ◆ 土地開発公社については、市が公社の所有する用地を平成25年4月に全て買戻し、平成25年11月に解散した。  
公社解散に伴い不用となった利息分 年間28,260千円
  - ◆ 【教育委員会社会教育部】  
一部の社会教育関係施設の駐車場を引き続き24時間供用として運営した。  
25年度使用料収入等合計 15,501,100円 (24時間供用としたことによる効果額)
- 【平成26年度】
- ◆ 売却予定6件中、一般競争入札で2件、隣接地所有者へ4件を売却した。
- |  |                       |                |
|--|-----------------------|----------------|
|  | 打出小槌町70番2 (1,208.74㎡) | 743,347,000円   |
|  | 翠ヶ丘町172番2 (330.38㎡)   | 100,190,190円   |
|  | 業平町24番2 (11.86㎡)      | 2,129,280円     |
|  | 公光町2番18 (35.08㎡)      | 8,573,040円     |
|  | 津知町160番13 (14.49㎡)    | 2,099,280円     |
|  | 潮見町16番4 (3,076.14㎡)   | 158,400,000円   |
|  | 合 計                   | 1,014,738,790円 |
- ◆ 引き続き、茶屋之町及び翠ヶ丘町で貸駐車場、翠ヶ丘町で資材置場へと貸付を行った。  
26年度賃貸料合計 5,487,933円
  - ◆ 【教育委員会社会教育部】  
一部の社会教育関係施設の駐車場を引き続き24時間供用として運営した。  
26年度使用料収入等合計 15,743,670円 (24時間供用としたことによる効果額)

3 有料施設の  
利用の促進

収益性の高いイベント 企業とのタイアップ企画 施設利用率向上の観点からの広報・ホームページでの宣伝のあり方						
所管課	指定管理施設所管課 市直営施設所管課					
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆【指定管理者施設】指定管理者と施設所管課の定期的な企画会議を設け、指定管理者の事業計画の報告と合わせて施設利用向上及び広報のあり方などについて協議する。</li> <li>◆【市施設】定期的な連絡調整会議を開催し、利用促進を図るための課題の整理や解決のための手法を検討・実施する。</li> </ul>					
実施年度	H24	H25	H26	H27	H28	
4	<b>【指定管理者施設】</b>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定期的な企画会議の開催(月1回の開催)</li> <li>○ 事業計画書の目標数値の達成</li> <li>○ 来館者数増加に向けた手法・広報の検討</li> <li>○ 施設ごとの利用のあり方について検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 必要に応じて使用料等に関する条例改正の検討</li> </ul>				
	<b>【市施設】</b>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 連絡調整会議の立ち上げ、定期的な開催</li> <li>○ 課題の整理(広報のあり方など)</li> <li>○ 利用者数増加に向けた手法の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 必要に応じて使用料等に関する条例改正の検討</li> <li>○ 次年度に向けた事業計画の作成</li> </ul>				
見直し計画			○ 課題に応じた調整会議の実施			
26年度までの実施状況等	<p>【平成26年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 指定管理者運営施設の担当課による連絡調整会議を2回実施し、外部評価の実施をはじめとした指定管理者制度の評価の強化に向けた課題のほか、現状の課題の協議などを行った。</li> <li>◆ 市民センター、福祉センター、潮芦屋交流センター、総合公園、体育館、青少年センター及び屋外スポーツ施設と新たに市民活動センターの施設予約システムを統合・更新するため、情報政策課及び各施設所管課において平成27年度実施に向けて検討・準備を進めた。</li> <li>◆ 【図書館】市役所連絡通路に返却ポストを設置し、返却ポストには平成26年度に貸出した図書の総数の約2.2%が返却され、返却手続の利便性が向上した。</li> </ul> <p>【平成24年度～平成26年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 【総合公園】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設利用件数は、平成24年度は1,685件、平成25年度は2,013件、平成26年度は1,732件であり、貸室の利用件数は、平成24年度は291件(利用率29.3%)、平成25年度は235件(利用率28.2%)、平成26年度は242件(利用率30.4%)である。</li> <li>・ 市と指定管理者で毎月1回定例会議を開催。指定管理者により、園芸セミナーを毎月3回程度開催し、公園利用の向上のため、利用者、周辺住民等を含めた公園運営を検討する協議会を立ちあげた。また、事務所入口に設置している掲示板を活用し、公園利用者間の意見交流を図った。平成26年度から開始した新たな指定管理者の特色を活用し、市民の体力向上を促す自主事業を実施し、市民のニーズをよりの確に把握して参加者を増やす取組を実施した。</li> </ul> </li> </ul>				26年度までの進捗状況	実施(進行中)

- ◆ 【体育館・青少年センター、川西運動場、中央公園野球場、中央公園芝生広場、東浜公園庭球場、西浜公園庭球場】
  - ・体育館については、深夜利用枠を設け利用者のニーズを反映しており、年末を有効利用していただけるよう年末特別開館し、競技場・柔道場・剣道場・弓道場の団体使用、卓球・バドミントンの個人使用とトレーニング室を開室し、市民の健康増進を図った。
  - 体育館・青少年センター利用件数は、平成24年度14,599件、平成25年度15,416件、平成26年度14,240件
  - トレーニング室利用者数は、平成24年度15,660人、平成25年度16,151人、平成26年度18,049人
  - 芦屋中央公園野球場利用件数は、平成24年度1,306件、平成25年度1,317件、平成26年度1,205件
  - 芦屋中央公園芝生広場利用件数は、平成24年度329件、平成25年度318件、平成26年度378件
  - 川西運動場利用件数は、平成24年1,301件、平成25年度1,256件、平成26年度1,162件
  - 西浜公園庭球場利用件数は、平成24年度2,836件、平成25年度2,801件、平成26年度2,717件
  - 東浜公園庭球場利用件数は、平成24年度2,703件、平成25年度2,615件、平成26年度2,578件
  
- ◆ 【海浜公園水泳プール(屋内プール、屋外プール)】
  - ・屋内温水プールは年間を通して運営しており、自主事業の教室は利用者ニーズを反映し取り組んでいる。また、一般遊泳者向けに無料レッスンを実施し利用者の拡充とサービスを図った。利用者数は、平成24年度52,230人、平成25年度56,037人、平成26年度35,167人。(平成26年度は4月～6月の3か月間、改修工事を行ったため利用者数が減となった)
  - ・近隣市にプール施設が少ないことから地域密着施設として運営しており、毎年7月に、無料デーを実施し市民に親しまれる施設運営を図った。
  - ・利用者数は、平成24年度27,223人、平成25年度25,428人、平成26年度20,180人
  
- ◆ 【朝日ヶ丘公園水泳プール(屋外プール)】
  - ・学校園のプール授業として施設利用されていることから、地域密着型施設である。なお、自主事業としての芦屋水練学校開校は60年以上続く歴史的な学校として運営している。さらに、平成24年度からは芦屋市民水泳記録会を企画し、市民に親しまれる施設運営を図った。
  - ・利用者数は、平成24年度25,911人、平成25年度25,019人、平成26年度21,309人
  
- ◆ 【芦屋公園庭球場】
  - ・テニスを通しての市民健康づくりとして毎年市民無料開放日(年2回)を実施運営している。また、青少年健全育成事業として「子ども居場所づくり」を平成25年6月から毎月第2・4・5土曜日に実施し利用促進を図った。
  - ・利用件数は、平成24年度3,563件、平成25年度3,807件、平成26年度4,109件
  
- ◆ 【潮芦屋交流センター】
  - ・平成24年度は指定管理者が作成しているホームページは情報量が少なく、イベント予告等もできていなかったためホームページを更新するよう指導を行った。
  - ・平成25年度は潮芦屋交流センターのホームページをリニューアルし、より見やすくわかりやすい情報発信に努めた。
  - ・これまで鏡のついた部屋が1室しかなく、予約が重複することもあったため、利用者ニーズに合わせて平成26年度に2階の1室に鏡を設置した。また、調理室にも講師の手元が見えるように鏡を設置し利用促進を図った。
  - ・施設利用者数は平成24年度は41,161人(利用率39%)、平成25年度は45,904人(利用率47%)、平成26年度は47,382人(利用率49%)である。
  
- ◆ 【谷崎記念館】
  - ・特別展などの実施により来館者数の増加を目指して取り組んでいる。
  - ・入館者数は平成24年度は13,570人、平成25年度は11,196人、平成26年度は14,415人
  
- ◆ 【美術博物館】
  - ・特別展の実施のほか、市内各種団体及び地域の店舗に直接依頼する等広報先の拡大や、情報発信の場として平成25年3月から開始した「ツイッター」を定着させた。
  - ・入館者数は平成24年度は27,540人、平成25年度は33,040人、平成26年度は26,646人  
(毎年、多くの方に来ていただいているアートバザールが悪天候のため一部中止になったことや隔年実施の芦屋市展が、無かったことなどが平成26年度の減少の原因と考えられる。)

◆【あしや市民活動センター】

- ・指定管理者と月1回指定管理者会議を実施し、事業計画の報告、施設利用向上、広報について協議を行っている。
- ・利用者数は平成24年度は5,990人（利用率22%）、平成25年度は14,444人（利用率40%）、平成26年度13,842人（利用率49%）である。平成25年度はオープニングセレモニーを実施したため、過年度と比較すると平成26年度の利用者数は減少しているが、市民活動団体等の継続的な利用に伴い、利用率は向上している。  
平成27年度から開館時間を9時に変更するため、設置管理条例を改正した。

◆【地区集会所】

- ・指定管理者と月1回指定管理者会議を実施し、事業計画の報告、施設利用向上、広報について協議を行うほか、平成25年度から利用がある場合の午後と夜間にも管理人を配置した。
- ・利用件数は平成24年度は18,694件（利用率47.7%）、平成25年度は19,283件（利用率47.1%）、平成26年度19,469件（利用率46.8%）である。各集会所によって利用率の増減の状況は異なっているが、三条集会所の利用率については特に向上している。



4 環境負荷  
の 低 減

節電対策																
所 管 課	環境課 用地管財課															
取 組 内 容	◆ 熱源機器の効果的な配置や個別の空調機器を省エネタイプ機器へ順次切り替えていくことにより、ランニングコストの削減及びCO2排出削減に取り組んでいく。また、費用対効果の観点から電気使用頻度の高い場所はLED照明に切り替えていく。															
5 実 施 年 度	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 温室効果ガス排出量及び電気使用量をH27年度までに5%以上削減(基準：H21年度)するための実施プログラムの作成</td> <td>○ 実施プログラムの実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>○ 環境保全率先実行計画の見直しに伴う新たな目標値の設定</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	H24	H25	H26	H27	H28	○ 温室効果ガス排出量及び電気使用量をH27年度までに5%以上削減(基準：H21年度)するための実施プログラムの作成	○ 実施プログラムの実施							○ 環境保全率先実行計画の見直しに伴う新たな目標値の設定	
H24	H25	H26	H27	H28												
○ 温室効果ガス排出量及び電気使用量をH27年度までに5%以上削減(基準：H21年度)するための実施プログラムの作成	○ 実施プログラムの実施															
			○ 環境保全率先実行計画の見直しに伴う新たな目標値の設定													
計 画																
見直し計画	● 節減目標達成に向けた継続取組															
26年度までの実施状況等	<p>◆ 【環境課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「芦屋市環境保全率先実行計画」における進捗把握の取組を活用し、各部署及び職員個々による現状認識と課題抽出に加えて、その改善について提案し実践できるようにするための「電気使用量抑制プログラム」を策定し、市の出先機関に記入シートを配布し、回答してもらう仕組みを平成24年度から開始。シートには過去の電気使用量の推移を示し、現状での電気使用の状況や問題点、1年間の電気使用量の目標値を設定し、そのための個々の取組内容を、それぞれの事情も踏まえて記入するものとしている。</li> <li>平成25年度の実績では、基準年度（平成21年度）比で、温室効果ガス排出量は6.4%増、また、電気使用量は4.2%の増加となったが、基準年度以降に開設した新たな施設等の影響を除くと、電気使用量については基準年度比0.4%、前年度（平成24年度）比でも0.1%の削減となった。</li> <li>平成26年度の実績では基準年度（平成21年度）比で、温室効果ガス排出量は4.2%増、また、電気使用量は2.3%の増加となったが、基準年度以降に開設した新たな施設等の影響を除くと、電気使用量については基準年度比4.4%減、前年度比（平成25年度）比でも4.1%の削減となった。</li> <li>電気使用量の削減については、機器更新等ハード面における取組がより効果的であることから、公共施設等の保全計画で大型改修を数年後に控える施設において省エネ診断を実施し、改修計画等に反映できるよう所管課及び建築課に対して情報提供等調整を行うこととし、平成26年度では、図書館にて省エネ診断を実施した。</li> </ul> <p>◆ 【用地管財課・教育委員会管理課・建築課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設管理及び更新スケジュール等を勘案のうえ、熱源機器の効果的な配置や空調機器の省エネタイプ機器への取替え、LED照明への切替えを積極的に行っている。</li> <li>平成25年度は本庁舎南館の照明器具を全て省エネ節電型のLED照明器具へと更新した。照明器具を更新することで本庁舎全体で年間の電気使用量で前年度比約10%の削減ができた。また、調光センサー、人感センサーの併用で更に省エネを図っている。</li> <li>そのほか、打出教育文化センターの空調機器の更新、宮川小学校の空調機器及び照明器具の更新を実施した。平成25年度の学校園施設における節電対策により年間の電気使用量で前年度比2.3%を削減した。宮川小学校の空調機器個別空調化及び照明器具のLED化により、年間の電気使用量で前年度比10.6%を削減した。</li> <li>平成26年度には、本庁舎南館の老朽化に伴い、効率の悪い空調機器を更新し、省エネ耐用に切替え、電力使用量を抑えた。また、打出浜小学校では、大規模改修工事により空調機器及び照明器具のLED化、体育館棟の照明器具のLED化により、年間の電気使用量で前年度比11.3%を削減した。</li> </ul> <p>◆ 【道路課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内における公益灯（電柱添架型水銀灯）LED化の年次的な実施に向けて、平成26年度までに604灯（7.8%）のLED化を行った。</li> </ul> <p>◆ 【政策推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>節電対策の取組として、市役所本庁舎の閉庁実施した。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>平成24年度</td> <td>平成24年8月13日～15日</td> <td>電気使用量節減効果</td> <td>対22年度比△20.3%</td> </tr> <tr> <td>平成25年度</td> <td>平成25年8月14日～16日</td> <td>電気使用量節減効果</td> <td>対22年度比△15.2%</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>平成26年8月13日～15日</td> <td>電気使用量節減効果</td> <td>対22年度比△28.8%</td> </tr> </table>	平成24年度	平成24年8月13日～15日	電気使用量節減効果	対22年度比△20.3%	平成25年度	平成25年8月14日～16日	電気使用量節減効果	対22年度比△15.2%	平成26年度	平成26年8月13日～15日	電気使用量節減効果	対22年度比△28.8%			
平成24年度	平成24年8月13日～15日	電気使用量節減効果	対22年度比△20.3%													
平成25年度	平成25年8月14日～16日	電気使用量節減効果	対22年度比△15.2%													
平成26年度	平成26年8月13日～15日	電気使用量節減効果	対22年度比△28.8%													
	26年度までの進捗状況															
	実施（進行中）															

低公害車導入 公用車利用の抑制							
所管課	環境課 用地管財課						
取組内容	◆ 財政状況を踏まえて可能な限り低公害車の導入を検討するとともに、公用車利用の抑制を図る。						
6 実施年度	H24	H25	H26	H27	H28		
計画	○ 公用車利用の抑制 ○ 財政状況を踏まえた低公害車導入の検討 ○ 公用車の計画的な廃車 ○ カーシェアリング等の検討						
26年度までの実施状況等	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 【用地管財課】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境課と共同で低公害車導入プログラムを作成した。</li> <li>・電動自転車6台を始め、全13台の自転車の利用促進を行い、1日あたり平均約6台の使用によって公用車の利用抑制を進めた。</li> </ul> </li> <li>◆ 【環境課】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「芦屋市環境保全率先実行計画」において、平成27年度までにハイブリッド自動車もしくは電気自動車を10台導入することを努力目標として掲げ、平成26年度までに7台を導入した。また、導入促進の取組として、公用車を有する所管課に対し、低公害車への更新の可能性を調査し、導入計画を作成した。</li> <li>・また、公用車利用の抑制については、引き続き、ノーマイカーデーの周知啓発に努めている。</li> </ul> </li> </ul>					26年度までの進捗状況	実施（進行中）
紙使用量の抑制							
所管課	環境課						
取組内容	◆ 定例の報告書や紙資料の電子化をより一層工夫・徹底し、紙使用量の抑制を図る。						
7 実施年度	H24	H25	H26	H27	H28		
計画	○ 用紙類の購入量をH27年度までにH17年度から21年度までの平均値以下にするための実施プログラムの作成 ○ 紙資料等の組織共有化の推進	○ 実施プログラムの実施			○ 環境保全率先実行計画の見直しに伴う新たな目標値の設定		
見直し計画				● 節減目標達成に向けた継続取組			
26年度までの実施状況等	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「芦屋市環境保全率先実行計画」においてコピー用紙使用量削減を呼びかけ、使用（購入）量の検証を行っている。また、本庁舎等についてはEMSの推進により使用量の削減に取り組んでいる。率先実行計画における目標値として平成17年度～21年度の平均を基準に増加させないものとしているものの、その後の状況の変化により、急増していることから、「紙使用量抑制プログラム」を策定し、EMS適用範囲の部署に記入シートを配布し、回答してもらう仕組みを平成24年度から開始。現状でのコピー用紙使用の状況や問題点、1年間のコピー用紙使用（購入）量の目標値を設定し、その達成のための個々の取組内容を、それぞれの事情も踏まえて記入するものとしている。また、平成25年度から「紙使用量抑制プログラム」の運用として、EMS内部監査の機会を活用し、取組状況の確認を行っている。</li> <li>・「紙使用量抑制プログラム」の運用を開始した平成25年度のコピー用紙使用（購入）量は、基準年度（平成17年度～平成21年度の平均値）比で13.8%の増加となったが、前年度（平成24年度）比では12.2%の削減となった。</li> <li>・平成26年度のコピー用紙使用（購入）量は、各種計画の策定が重なる等、基準年度（平成17年度～平成21年度の平均値）比で24.7%の増加となり、前年度（平成25年度）比でも9.7%の増加となった。</li> </ul>					26年度までの進捗状況	実施（進行中）

5 財 政 運 営 の 健 全 化	財政健全化への取組					
	所 管 課	財政課				
8	取 組 内 容	◆ 平成26年度末時点での市債残高500億円以下を目指すため、財政状況を見極めながら、可能な限り借入抑制や繰上償還を行う。				
	実 施 年 度	H24	H25	H26	H27	H28
	計 画	○ 借入抑制 ○ 積極的な繰上償還	→		○ 市債残高500億円以下の達成	
26年度までの実施状況等	◆ 「長期財政収支見込」を毎年2月に公表している。 ◆ 市債を早期に償還するため、平成24年度は7.8億円の借換抑制、平成25年度は8.6億円の借換抑制及び20億円の繰上償還を実施し、平成25年度末の一般会計市債残高は542億円となった。 平成26年度には、市債の繰上償還を積極的に実施し、平成26年度末の一般会計市債残高は484億円となった。				26年度までの進捗状況	実施済
国・県への財政要望 補助金・交付金等の活用						
9	所 管 課	財政課				
	取 組 内 容	◆ 引き続き、本市の状況を説明し、財政支援について国・県へ要望していく。また、将来市費の負担が伴う補助事業の活用について取捨選択を適宜行う。				
	実 施 年 度	H24	H25	H26	H27	H28
計 画	○ 国・県へ財政支援の要望 ○ 補助事業の取捨選択	→				
26年度までの実施状況等	◆ 阪神・淡路大震災の復旧・復興事業の財源として借り入れた地方債が多額となっていることから、毎年度、市長及び財務担当が総務省への財政支援の要望を実施している。 特別交付税交付額 平成24年度1,472,516千円 平成25年度1,392,018千円 平成26年度1,360,397千円				26年度までの進捗状況	実施（進行中）
分かりやすい財務情報の提供						
10	所 管 課	財政課				
	取 組 内 容	◆ 市の財務情報については、参考となる他市の事例等も研究し、適切な情報公開や分かりやすい広報に努める。				
	実 施 年 度	H24	H25	H26	H27	H28
計 画	○ 新年度予算について、各細目（事業別）の要求額、査定額、財源及び前年対比などをホームページ上で公開	○ 総合計画の事務事業別の予算集計の公開について研究	○ 他市事例の研究及び実現可能なものについての実施	→		
26年度までの実施状況等	◆ 市の財務情報をできる限り公表するとともに家計に例えるなど、分かりやすい広報に努めた。 ◆ 予算編成方針、補正予算の概要、決算統計、決算カード、健全化法による財政指標、財務統計、公的資金補償金免除繰上償還制度、新公会計制度による財務諸表などを随時更新している。 ◆ 細目コード別予算査定状況をホームページで公開、また、新年度予算概要及び新公会計制度による財務諸表を公表している。 ◆ 「財務統計」を公表した。（毎年10月に公表） ◆ 平成26年度は消費税引き上げ分の使途を予算概要（平成27年度）において明示した。				26年度までの進捗状況	実施（進行中）

6 収入確保策

使用料・手数料の見直し						
所管課	財政課 使用料・手数料事務所管課 環境施設課					
取組内容	◆ 他市の事例等の研究や、毎年度手数料調査を実施し、必要な見直しを行う。また、事業系ごみの適正処理を図るため、一般廃棄物の処理状況調査を実施する。					
実施年度	H24	H25	H26	H27	H28	
11 計画	【使用料・手数料】 ○ 手数料状況調査の実施・見直し					
	【事業系ごみの適正処理】 ○ 調査事前準備	○ 適正処理のための調査 ○ 適正処理の実施				
見直し計画			【事業系ごみの適正処理】 ○ 適正処理の実施	● これまでの取組を踏まえた調査		
26年度までの実施状況等	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 【財政課】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね3年ごとに各使用料・手数料について受益者負担の程度や他市の状況等を調査し、改訂の有無を検討している。</li> <li>・平成25年度に調査を実施し、調査結果を踏まえて平成26年度予算編成において消費税引き上げに伴う改定の可否を検討した。</li> </ul> </li> <li>◆ 【環境施設課】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業系ごみは、自ら環境処理センターに持ち込む、あるいは許可業者に依頼するように、広報紙等を通して啓発活動を行っている。</li> <li>・平成25年度は適正処理の啓発チラシを作成し、事業所に配布を行い、事業系ごみの収集について許可業者との意見交換を行った。</li> <li>・事業系ごみの適正処理等のため、平成24年度から持込みごみ予約制度の導入について検討を行い、平成26年10月から実施した。</li> </ul> </li> </ul>				26年度までの進捗状況	実施（進行中）

広告収入の拡大						
所 管 課	広報国際交流課 用地管財課 広告事務の所管課					
取 組 内 容	◆ 広告収入を確保する手法の検討や、広告媒体を拡充し、更なる広告収入の拡大に向けて検討・実施する。					
12 実 施 年 度	H24	H25	H26	H27	H28	
計 画	○ 広告掲載の基準について プロジェクトチームによる 調査・研究 ○ 広告媒体の拡充の検討 ○ 広告枠の一括売却の検討	○ H25年度以降可能なものから 実施				
見直し計画			● 既実施事例を参考にした対 象物拡充			
26年度までの 実施状況等	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 【広報国際交流課】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広告枠の一括売却を検討するも、広告掲載の依頼が順調で僅かではあるが広告収入が伸びる傾向にあったため、売却については一旦保留とし、今後の動向を見ながら再度検討することとしている。新規バナー広告は平成24年度で7件、平成25年度は6件、平成26年度は1件</li> </ul> </li> <li>◆ 【用地管財課】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き用地貸付時にバナー広告について呼びかけを行っている。</li> <li>・ 庁舎内に広告付き案内表示を設置</li> </ul> </li> <li>◆ 【課税課・市民課】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 封筒については、納税通知書等用封筒に広告収入の取組を実施。また、市民課及び課税課の窓口封筒については広告掲載封筒を寄附で賄っているため、歳出の抑制を図っている。</li> </ul> </li> <li>◆ 【環境施設課・健康課・公園緑地課・芦屋病院】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冊子については、家庭ごみハンドブック、オープンガーデンのパンフレット、がんフォーラムのパンフレットに広告収入の取組を実施。平成26年度は新あしやウォーキングマップを新規で実施した。</li> </ul> </li> <li>◆ 【政策推進課】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成26年度に実施した阪神・淡路大震災20周年事業のうち、1.18 ASHIYA 防災ひろばの当日パンフレットにおいて防災の取組を行っている2団体及び1社より広告収入を得た。</li> <li>・ 広告掲載基準については、既実施済の事例等を基に、対象印刷物に応じたもので実施しており、総合計画実施計画ヒアリング時などを通じて、対象拡大を図っている。</li> </ul> </li> </ul>				26年度 までの 進捗状況	実施（進行中）

7 未収金対策

私債権の徴収の強化 連帯保証人及び保証人への徴収

所 管 課 政策推進課 債権管理課 徴収事務所管課

取 組 内 容 ◆ 歳入の増収を図るため市税徴収のノウハウを各債権の徴収に応用し、私債権についても職員で支払督促などの法的措置ができるようにする。また、債権の確保を図るため、連帯保証人及び保証人への徴収・催告についても各債権について実施する。

13	実施年度	H24	H25	H26	H27	H28
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 貸付条件、督促、催告など事務の見直し検討</li> <li>○ 弁護士への委託、研修</li> <li>○ 必要に応じて条例及び規則の見直し</li> </ul>	○ 実施			

26年度までの実施状況等	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 【政策推進課】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年1月に「債権管理取扱指針」を改訂。</li> <li>・未収金（滞納分）残額は、災害援護資金貸付金や市営住宅使用料等の収入があったことにより、平成24年度末は593,973千円（徴収率7.49%）から平成25年度末は585,145千円（徴収率6.69%）に減少している。</li> <li>・平成25年度は各課において適切な業務が行えるよう職員を講師とした権利放棄事務研修を実施。</li> <li>・平成26年度も債権に関する研修を実施。（8月19日 法務研修「市の債権の種類と管理」）</li> <li>・平成26年度末の私債権の未収金（滞納分）残額は、558,492千円（徴収率5.26%）で、対前年比で減少している。</li> </ul> </li> <li>◆ 【債権管理課】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・裁判所から通知される破産・競売情報を各課へ周知し情報の共有を図っている。</li> </ul> </li> <li>◆ 【住宅課】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当職員によって、市営住宅明渡し等の法的措置に取り組んだ。</li> <li>・平成24年度に市営住宅明渡し等の訴訟提起を1件行い、平成25年度に明渡しの強制執行を1件行った。</li> <li>・平成26年度に市営住宅明渡し等の訴訟提起を2件行い、結審後、自主退去となった。</li> </ul> </li> </ul>	26年度までの進捗状況	実施（進行中）
--------------	---	-------------	---------

② 民間活力の導入

8 指定管理者制度等の充実・検証  
(民間委託含む)

導入事前調査のあり方・非公募施設の見直し						
所管課	政策推進課 指定管理者担当所管課					
取組内容	◆ 指定管理者の導入において、適切な事前調査による公募施設の拡大を図るため、指定管理者選定委員会で公募、非公募について審議する。					
14 実施年度	H24	H25	H26	H27	H28	
計画	○ 取扱指針の見直し ○ 公募、非公募を指定管理者選定委員会で審議 ○ (公募の場合)事前準備		→			
見直し計画			○ 取扱指針の見直し ○ 公募、非公募を指定管理者選定委員会で審議 →			
26年度までの実施状況等	<p>◆ 指定管理者選定委員会の第1号委員による「公募によらない指定管理者の候補者についての意見交換会」を開催し、所管課が施設及び候補団体の概要、非公募の理由等を説明し、意見を聴取した。(平成25年度対象：5施設、平成26年度対象：2施設)</p> <p>◆ 平成26年度に、芦屋市附属機関の設置に関する条例を改正し、芦屋市指定管理者選定委員会の担当事務に公募によらない指定管理者の候補者の選定に関する事項についての審議を加えた。(公の施設の管理に係る評価に関する事項についての審議も同時に加えたため、委員会名称を「指定管理者選定・評価委員会」に変更した。)それに伴い非公募施設の選定に係る導入スケジュールを見直した。</p>				26年度までの進捗状況	実施(進行中)
指定管理者制度導入〔公営住宅〕						
所管課	住宅課					
取組内容	◆ 住宅管理業務について、民間のノウハウと実績を活用するため、指定管理者制度の導入を進める。					
14 (1) 実施年度	H24	H25	H26	H27	H28	
計画	○ 課題の整理 ○ 募集要項の検討 ○ 指定管理者選定委員会で審議 ○ 指定管理者の指定議案の提案	○ 指定管理者制度の導入 ○ 四半期ごとの検証	○ 四半期ごとの検証、事業報告、年度評価	→		
26年度までの実施状況等	<p>◆ 平成24年度は指定管理者選定委員会による審議を経て、平成25年3月議会において可決。平成25年4月から指定管理者による管理を開始した。</p> <p>◆ 毎週、定例会議を実施し、情報や課題の共有を図り、指定管理者と住宅課が協議・連携し、管理運営を行った。 ・指定管理者によって市営住宅使用料の収納率は、向上しており(特に現年度分)、歳入の増加にも寄与している。 (住宅使用料現年徴収率:平成24年度98.62% 平成25年度98.55% 平成26年度99.38%)</p>				26年度までの進捗状況	実施(進行中)

指定管理者制度導入検討〔あしや温泉〕												
14 (2)	所 管 課	環境課										
	取 組 内 容	◆ 近隣住民に配慮した管理運営について検証した上で、指定管理者制度の導入を進める。										
	実 施 年 度	H24	H25	H26	H27	H28						
計 画	○ 課題の整理 ○ 設置管理条例の改正 ○ 募集要項の検討	○ 指定管理者選定委員会で審議 ○ 指定管理者の指定議案の提案	○ 指定管理者制度の導入 ○ 四半期ごとの検証	○ 四半期ごとの検証、事業報告、年度評価								
見直し計画					● 次期選定に向けた手続実施							
26年度までの実施状況等	<p>【平成24年度】</p> <p>◆ 見積り合わせによる業務委託を行っていたが、更なる安定運営とサービスの向上等を目的として、指定管理者制度導入を検討し、平成24年度は指定管理者制度導入に向けて、平成24年12月に、設置管理条例を改正した。また、駐車料金を設定し、有料化した。</p> <p>【平成25年度】</p> <p>◆ 平成25年度は指定管理者選定委員会による審議を経て、平成25年12月議会において可決。</p> <p>【平成26年度】</p> <p>◆ 平成26年4月から指定管理者による管理を開始した。</p> <p>◆ 利用状況</p> <table border="0"> <tr> <td>平成24年度（営業日数288日）…</td> <td>104,400人（一日平均362.5人）</td> </tr> <tr> <td>平成25年度（営業日数288日）…</td> <td>99,500人（一日平均345.5人）</td> </tr> <tr> <td>平成26年度（営業日数279日）…</td> <td>96,195人（一日平均344.8人）</td> </tr> </table>				平成24年度（営業日数288日）…	104,400人（一日平均362.5人）	平成25年度（営業日数288日）…	99,500人（一日平均345.5人）	平成26年度（営業日数279日）…	96,195人（一日平均344.8人）	26年度までの進捗状況	実施（進行中）
平成24年度（営業日数288日）…	104,400人（一日平均362.5人）											
平成25年度（営業日数288日）…	99,500人（一日平均345.5人）											
平成26年度（営業日数279日）…	96,195人（一日平均344.8人）											
指定管理者制度導入検討〔市民会館・公民館〕												
14 (3)	所 管 課	市民センター										
	取 組 内 容	◆ 安定した事業の継続に向けて事業提案型の民間委託を拡大し、実施状況を検証しながら、指定管理者制度導入に向けた調査研究を行い、導入を進める。										
	実 施 年 度	H24	H25	H26	H27	H28						
計 画	○ 民間活力導入による業務委託の実施 ○ 業務委託の検証	○ 公民館運営審議会で審議	○ 設置管理条例の改正 ○ 募集要項の検討 ○ 指定管理者選定委員会で審議 ○ 指定管理者の指定議案の提案	○ 指定管理者制度の導入 ○ 四半期ごとの検証	○ 四半期ごとの検証、事業報告、年度評価							
見直し計画			○ 公民館運営審議会で審議	● 教育委員会で指定管理者制度導入に対する方針決定	● 教育委員会の方針決定に基づき必要な手続を実施							
26年度までの実施状況等	<p>【平成24年度】</p> <p>◆ 市民センターのルナ・ホール事業、公民館講座関連事業及び収納事務の委託を新たに実施した。</p> <p>【平成25年度】</p> <p>◆ 公民館運営審議会で、民間事業者への事業委託の検証と指定管理者制度について協議した。</p> <p>【平成26年度】</p> <p>◆ 公民館運営審議会にて、平成27年2月には意見をとりまとめ、芦屋市立公民館の運営については、指定管理者制度導入ではなく、現行どおりの業務委託による運営を続けるのが望ましい、という意見に、委員全員の意見が一致するという結果が出され、それも踏まえ、引き続き検討。</p>				26年度までの進捗状況	一部未実施						



指定管理業務の外部による点検（モニタリング・業務効率化・第三者評価）

所 管 課	政策推進課 指定管理者担当所管課					
取 組 内 容	◆ 指定管理者による運営体制へのチェックを強化し、サービス向上と更なる経費節減のため、第三者による評価を実施・公表する。					
15 実 施 年 度	H24	H25	H26	H27	H28	
計 画	○ 先進市の事例調査・研究 ○ 現行評価のあり方の見直し	○ 評価基準の作成 ○ 必要に応じて条例の見直し	○ 外部評価の導入 ○ 評価の公表			
見直し計画			○ 必要に応じて条例の見直し	○ 評価基準の作成 ○ 外部評価の導入 ○ 評価の公表		
26年度までの 実施状況等	<p>【平成24年度】</p> <p>◆ 指定管理者制度研修として公認会計士による「決算書の見方・チェック項目」を実施</p> <p>【平成26年度】</p> <p>◆ 監査法人への委託により、担当課のモニタリングに同行（2施設：美術博物館、総合公園）し、財務処理ほかのモニタリングサポートとともに、課題抽出を行った。その結果を踏まえ、モニタリングの実施項目等について課題の整理を行い、事務処理要領及びモニタリングマニュアルの見直しを行った。</p> <p>◆ 指定管理者に対する年度評価について、協定書及び事業計画書とその実施状況、四半期モニタリングにおける結果などが評価に連動するよう、評価の客観性を高めるように様式を改訂した。平成27年度実施分の年度評価表より新様式で実施。</p> <p>◆ 外部の視点によるチェックとして監査法人に委託し、公認会計士による専門的な知見により、指定管理者の財務処理等の調査を行い、その調査結果を基礎資料として内部評価を試行実施した。（2施設：三条デイサービスセンター、市民活動センター）</p> <p>◆ 平成27年度からの外部評価の実施に向けて、芦屋市指定管理者選定委員会の担任事務に指定管理者に行かせた公の施設の管理に係る評価に関する事項についての審議を加えるとともに、同委員会の名称を「指定管理者選定・評価委員会」とするため附属機関条例等を改正した。</p>				26年度 までの 進捗状況	一部未実施

③ 事務事業の見直し

9 P D C A の イ ク ル 底	事務事業評価と施策評価の連携					
	16	所 管 課	政策推進課			
	取 組 内 容	◆ 総合計画基本計画の進行管理を行うため、施策評価の実施に向けて取り組んでいく。				
	実 施 年 度	H24	H25	H26	H27	H28
	計 画	○ 事務事業評価の改善 ○ 施策評価の実施	○ 施策評価及び事務事業評価の改善・実施			
見直し計画			○ 施策評価の実施			
26年度までの実施状況等	<p>【平成24年度】</p> <p>◆ 市民意識調査アンケートを実施し、平成25年3月に市民意識調査アンケート結果報告書を作成、公表した。</p> <p>【平成25年度】</p> <p>◆ 学識経験者に行政評価アドバイザーの就任を依頼し、施策評価の導入に向けて助言を受けながら進めてきた。</p> <p>【平成26年度】</p> <p>◆ 第4次芦屋市総合計画前期基本計画に位置付けられている35項目の施策目標に対して施策評価を実施し、後期基本計画（原案）策定に向けた課題整理及び今後の取組における必要性の検討に活用した。</p> <p>◆ 第4次芦屋市総合計画後期基本計画原案策定において、施策評価を念頭に各施策の目標指標の設定などを行った。<u>実施計画と事務事業評価をシステムで連動させ、帳票の統一化を図った。</u>  <u>また、事務事業評価では、施策評価の導入を踏まえ、係長による担当評価、課長による総合評価に評価者権限を改めるとともに、帳票作成においては「前期5年の重点施策」の記載による意識付け、人件費の入力業務の簡素化による負担軽減、減価償却費の基本的な考え方の整理などの改善を行った。</u></p>				26年度までの進捗状況	実施（進行中）

④ 増加する医療費への対応

10 医療費の抑制	がん検診及び特定健康診査の受診率の向上																		
	所管課	健康課 保険課																	
	取組内容	◆ 市民の健康増進及び医療費の抑制を図るため、がん検診・特定健診の受診啓発等により受診率の向上を図る。 (平成24年度は、特定健診の受診率65%、がん検診の受診率50%を目指す。平成25年度以降は、次期計画に掲げる目標受診率の達成を目指す。)																	
17	実施年度	H24	H25	H26	H27	H28													
	計画	○ 特定健診・特定保健指導実施計画及び健康増進・食育推進計画の見直し及び次期計画の策定 ○ 受診率・実施率の向上策の検討・実施	○ 次期特定健診・特定保健指導実施計画及び健康増進・食育推進計画に基づく取組																
	26年度までの実施状況等	◆ 【健康課】 (がん検診) ・平成25年3月に「第2次芦屋市健康増進・食育推進計画」を策定し、がん検診受診率を平成29年度に50%以上を目標として掲げている。引き続き、対象者にがん検診無料クーポン券の個別配布(乳、子宮頸、大腸)を行っている。 ・がん健診(肺、大腸、胃、乳、子宮頸)の全体受診者数は、平成24年度は28,606人(受診率21.7%)、平成25年度は28,904人(受診率21.9%)、平成26年度は29,805人(受診率22.6%)と増加している。 (特定健診) ・特定健診の未受診者に対し、健診とがん検診の受診勧奨ハガキを発送。保健センターでの特定健診とがん検診(肺、大腸、胃、乳)の同日開催を実施 ◆ 【保険課】 (特定健診) ・国が定めた前期の目標受診率は「平成24年度に65%以上」であった。受診率は平成20年度の30.2%から平成24年度には37.0%に伸びたものの目標値には達しなかった。また、国が定めた第二期計画の目標受診率は「平成29年度に60%以上」であり、本市においても平成25年3月に策定した「第二期 特定健診・特定保健指導実施計画」において同目標を掲げており、本市においては年度毎の目標値を下表のとおり定めている。平成25年度の受診率は38.8%、平成26年度も38.8%となっている。 表 特定健診の受診率目標(市) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受診率(%)</td> <td>40.0</td> <td>45.0</td> <td>50.0</td> <td>55.0</td> <td>60.0</td> </tr> </tbody> </table> ・特定健診を開始した平成20年度以降、受診率向上のため、レセプトデータから受診状況や年齢を反映させた個別受診勧奨ハガキの送付、電話での受診勧奨、イベントや地域ごとの部会などの様々な場面で啓発チラシを配布するなど促進に向けた取組を行っている。					平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	受診率(%)	40.0	45.0	50.0	55.0	60.0	26年度までの進捗状況	実施(進行中)
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度														
受診率(%)	40.0	45.0	50.0	55.0	60.0														

後発医薬品（ジェネリック医薬品）の活用

所 管 課 保険課

取 組 内 容

◆ 医療費の抑制と国民健康保険加入者の健康増進を図るため、レセプトデータの活用を拡大し、効果的なジェネリック医薬品利用促進通知を実施する。また、レセプトデータを保健指導に活用する。

18 実 施 年 度

H24

H25

H26

H27

H28

計 画

○ ジェネリック医薬品利用促進通知や保健指導でのレセプトデータ活用方法の検討

○ ジェネリック医薬品利用促進通知の効果的活用及び保健指導の拡充

26年度までの  
実施状況等

- ◆ 国民健康保険証更新時にジェネリック医薬品希望カードを同封している。
- ◆ 本市の平成24年5月診療（調剤）のジェネリック医薬品の使用率は、数量ベースで28.0%であった。平成25年4月に厚生労働省が「後発医薬品の更なる使用促進のためのロードマップ」を策定し、ジェネリック医薬品の使用目標を「平成30年3月末までに数量シェアを60%以上」と定め、更に使用率の算定基準を改正した。新基準に基づく本市の平成25年5月診療（調剤）のジェネリック医薬品の使用率は数量ベースで45.8%であった。（新基準で改めて算出した平成24年5月の使用率は41.1%）また、レセプト分析の結果を基に、利用促進通知では、通知対象月を平成24年度から12か月に拡大し、6月ごとに年2回通知している。
- ◆ （利用促進通知による削減効果額）
  - ・平成24年度 665,296円（ただし、1か月分。平成24年度は、ジェネリック医薬品への切替えについて、平成24年12月の効果額のみ測定しているため、年額で効果額は測定不能。）
  - ・平成25年度 6,583,140円
  - ・平成26年12月のジェネリック医薬品の使用率は56.6%となった。（平成25年5月の使用率は45.8%）
  - ・平成26年度効果額 8,726,260円

26年度  
までの  
進捗状況

実施（進行中）

II 組織の活性化と人材の育成

① 組織の効率化・課題解決型の柔軟な組織体制

11 給 与 等 の 見 直 し	給与制度の見直し					26年度までの 実施状況等	26年度 までの 進捗状況	実施（進行中）
	所 管 課	職員課						
	取 組 内 容	◆ 給与制度の適正化を図るため、時限的な措置ではなく制度改革として取り組むため、単年度・中期的な給与の適正化計画を策定し、制度改革を実施する。						
	実 施 年 度 計 画	H24	H25	H26	H27			
		○ 適正化計画の策定・実施	○ 適正化計画の見直し					
		<p>【平成24年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 55歳以上の部長級、次長級の給料1.5%減額、近接地日当の廃止、課長級以上の管理職手当の減額（△6,677千円）</li> <li>◆ 勸奨退職に係る特別昇給の廃止</li> <li>◆ 芦屋市給与等適正化計画の策定</li> <li>◆ 特別職及び議員の期末手当の加算率の見直し（+2,934千円）</li> <li>◆ 退職手当の支給率の見直し、高齢層の昇格時号給級対応表の見直し</li> </ul> <p>【平成25年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 芦屋市給与等適正化計画による見直しを実施（△64,257千円） （初任給基準、管理職手当、管理職員特別勤務手当、扶養手当、通勤手当、住宅手当、特殊勤務手当、期末勤勉手当、昇格制度）</li> </ul> <p>【平成26年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 芦屋市給与等適正化計画による見直しを実施（△76,513千円） （初任給基準、管理職手当、管理職員特別勤務手当、扶養手当、通勤手当、住宅手当、特殊勤務手当、期末勤勉手当、昇格制度、昇給抑制、技能職給料表の導入）</li> </ul>						
20	非常勤委員報酬の見直し					26年度までの 実施状況等	26年度 までの 進捗状況	実施（進行中）
	所 管 課	職員課						
	取 組 内 容	◆ 日額を原則としている委員報酬の中で、月額としている各種委員会についての取扱いを検討する。						
	実 施 年 度 計 画	H24	H25	H26	H27			
		○ 判例の事例研究 ○ 県下の取組状況の調査 ○ 非常勤職員の実態調査表の作成	○ 第三者委員会での審議及び方針決定 ○ 必要に応じて条例の見直し					
	見直し計画	○ 県下の取組状況の調査				○ 必要に応じて、第三者委員会での審議、条例改正等		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 本市の状況も含めた実態調査のとりまとめを実施</li> <li>◆ 月額としている各種委員会の委員報酬の支出の差し止めを求める裁判で、差し止め請求を認容する判決が出され、非常勤委員報酬を見直す自治体が増加したことから、本市もその取扱いについて検討したが、月額報酬が地方自治法に違反しないという最高裁判決が下されて以降、月額化に見直す自治体は激減している状況となっている。 引き続き、地方自治法の趣旨にのっとった適正、公正かつ住民に十分に説明可能な合理的内容となるよう、他の自治体の（報酬の水準及び）月額化への取組について今後も把握に努める。</li> </ul>						

12 効率的な組織編成	組織体制の見直し						
	所管課	人事課 政策推進課					
	取組内容	◆ 組織横断的な課題や緊急の課題に対して迅速な意思決定を可能にする組織体制の構築を検討する。					
	実施年度	H24	H25	H26	H27	H28	
	計画	○ 課題に対して迅速な意思決定を可能にする仕組みや組織体制の検討					
	26年度までの実施状況等	◆ 部長－課長－係長－係員を中心とした簡素で効率的な組織の構築を目標として平成25年4月に組織改正を行った。 ◆ 平成26年度から次長級を廃止するとともに、指揮命令系統が明確となるよう、参事・主幹・主査ポストについても原則廃止とした組織体制の構築を進めた。				26年度までの進捗状況	実施（進行中）
	職員数・管理職ポストの適正化						
	所管課	人事課 政策推進課					
	取組内容	◆ 組織の効率化を図るため、職員数・管理職ポスト数の適正化を図る。					
	実施年度	H24	H25	H26	H27	H28	
計画	○ 業務統廃合の検討 ○ 所管とのヒアリング及び職員構成等を踏まえた適正な職員配置						
26年度までの実施状況等	◆ 簡素で効率的な組織を目指し、組織改正を進める中で、管理職数についても適正化を図った。 管理職数（係長級以上。ただし、再任用を除く） 平成24年度 359人 平成25年度 347人 平成26年度 343人				26年度までの進捗状況	実施（進行中）	
職務権限規程の見直し							
所管課	人事課 政策推進課						
取組内容	◆ 事務処理の効率化及び意思決定の迅速化を図るために、各職階に応じた権限（役割）と責任を見直して明確にする。						
実施年度	H24	H25	H26	H27	H28		
計画	○ 各職階に応じた権限（役割）と責任の見直し ○ 組織・機構に合わせた職務権限規程の随時見直し ○ 『権限事項表』で規定している権限事項の整理、統合						
26年度までの実施状況等	◆ 組織改正後の各職階の職務権限の考え方について整理を行いながら、「職務権限規程」を改正している。				26年度までの進捗状況	実施（進行中）	

13 行政課題の進行管理	行政課題の定期的な進行管理						
	所管課	政策推進課					
	24 取組内容	◆ 行政運営上の課題や懸案事項について、進行管理会議を定期的に開催し、課題解決に取り組む。					
実施年度	H24	H25	H26	H27	H28		
計画	○ 懸案事項の解決のため、進行管理会議を毎月開催						
26年度までの実施状況等	◆ 集会所トーク、議会検討約束事項、総合計画実施計画、行政改革項目、その他の重要課題も含め、おおむね月1回の「課題進行管理会議」を開催している。					26年度までの進捗状況	実施（進行中）

## ② 事務の効率化・職場の能率向上

14 職場における能率向上	文書管理の適正化						
	所管課	文書法制課					
	25 取組内容	◆ 文書処理の迅速化・効率化やペーパーレスによる省力化を図るため、電子化が可能な文書の指針等を策定し、電子化を徹底する。					
実施年度	H24	H25	H26	H27	H28		
計画	○ 文書管理システムでの電子化を推進するための指針を策定し、全庁的に周知・徹底 ○ 電子化の適否が不明確な文書について、文書行政課と協議・判断の上、決裁するよう徹底						
26年度までの実施状況等	◆ 新任研修及び法務研修における文書管理研修において、電子化の推進を周知した。 ◆ 「文書管理システムにおける電子化の推進について」により電子化の基準等を示し周知した。 ◆ 年に数回各課の電子化率を示し、前年度より低下している課に対し一層の電子化を促した。 文書管理システムにおける起案文書の電子化率は、平成24年度29%、平成25年度34%、平成26年度38%である。 ◆ ファイリングシステムの試験的導入及び行政資料の一部電子化により、文書検索性の向上、整理・保存の適正化を図った。					26年度までの進捗状況	実施（進行中）
26	業務標準化の推進						
	所管課	各課					
	取組内容	◆ 業務水準の維持向上を図り、採用・異動による新規職員の早期の戦力化及び将来的な外部委託へ対応するため、各所管の業務についてマニュアル化を促進する。					
実施年度	H24	H25	H26	H27	H28		
計画	○ マニュアル化の可能な業務の抽出 ○ マニュアル整備の実施						
26年度までの実施状況等	◆ 従来からあるマニュアルについては、所管課で適宜更新している。 ◆ 庁内の共通業務についても、「情報システムの導入等に関する注意事項」、「情報システムの備品登録について」、「電子メールによる市民等からの要望・意見等の取扱要領」、「芦屋市文書管理システムにおける電子化の推進について」、「指定管理者制度の導入及び運用に関する事務処理要領」、「外国人住民への多言語表記による情報提供に関する基本指針」、「芦屋市英語表記ガイドライン」等を作成、周知している。					26年度までの進捗状況	実施（進行中）

繁忙期の柔軟な職員シフト							
27	所管課	政策推進課 人事課 各部					
	取組内容	◆ 残業時間数や、業務量のバラつきを解消するため、部内において各課の業務量及び繁忙期を把握し、可能な限り柔軟な人員配置を検討する。					
	実施年度	H24	H25	H26	H27	H28	
	計画	○ 各部内の残業時間数に応じた職員体制の検討					
	見直し計画	○ 各部内の残業時間数に応じた職員体制の検討					
26年度までの実施状況等	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ワークライフバランスチェックシートを作成するほか、ヒアリング等を通じて、各課の業務量の把握に努めている。</li> <li>◆ 集会所トーク、議会答弁書調整、「社会を明るくする運動」市民の集いほか、イベントなど、各課の繁忙期に応じて柔軟に対応している。</li> </ul>					26年度までの進捗状況	一部未実施
福利厚生制度の見直し							
28	所管課	人事課					
	取組内容	◆ 職員の精神的健康に関する労働安全衛生法の改正等に伴い、必要に応じて現行の福利厚生制度を見直す。					
	実施年度	H24	H25	H26	H27	H28	
	計画	○ 職員の精神的健康に関する労働安全衛生法の改正等に伴う現行制度の見直しの検討	○ 必要に応じた現行制度の見直し及び新制度の実施				
	見直し計画		○ 職員の精神的健康に関する労働安全衛生法の改正等に伴う現行制度の見直しの検討	○ 必要に応じた現行制度の見直し及び新制度の実施			
26年度までの実施状況等	<p>【平成25年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 心身の健康支援合同連絡協議会を4回開催し、EAP事業の委託内容を検討し、新たな事業者の選考を行った。</li> </ul> <p>【平成26年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <u>職場復帰に向けた試し出勤実施要綱を制定（平成26年度より施行）</u> <u>試し出勤制度を利用して4名の職員が復職に結びついた。</u></li> <li>◆ <u>本市では、平成21年度からストレスチェックを実施しているが、平成26年度公布の労働安全衛生法の改正でストレスチェックが義務化されたため、法対応による実施ができるように準備を進めた。</u></li> </ul>					26年度までの進捗状況	実施（進行中）



15 会議運営の見直し	効率的な会議の運営 会議のルール化					
	所管課	政策推進課				
	29 取組内容	◆ 長時間の会議による経常業務への影響、超過勤務等の発生、会議場所の不足などの課題の解決のため、会議を効率的に運営できるよう進め方をルール化する。				
	実施年度	H24	H25	H26	H27	H28
	計画	○ 会議運営指針の策定、 周知、徹底	○ 会議運営状況の調査・検証			
見直し計画			○ 会議運営指針の策定、 周知、徹底	○ 会議運営状況の調査・検証		
26年度までの実施状況等	<p>【平成24年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 会議のルール作りについて先進市の事例等を研究した。</li> </ul> <p>【平成25年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 附属機関の運営に関するチェックリストを庁内に周知するとともに、効率的な会議の運営に関するアンケートを実施した。また、電子会議室に意見募集を開設し、庁内から幅広く意見を聴取した。</li> </ul> <p>【平成26年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 平成25年度に実施した職員募集の意見結果を基に、職員との意見交換会を実施し、“ルール（案）”を作成し、職員意見募集を行った。</li> <li>◆ 長時間の会議による経常業務への影響、超過勤務等の発生、会議場所の不足などの課題の解決のため、会議を効率的に運営できるよう、“「効率的な会議の運営」会議のルール”を定め、庁内ポータルの掲示板で周知するとともに、庁内パソコン起動時にルールが定期的に表示されるよう周知を行った。</li> </ul>				26年度までの進捗状況	実施（進行中）

③ 職員の意識改革・能力開発

16 職員の意識改革と能力開発	職員提案、一課一改善運動の見直し					
	30	所管課	政策推進課			
	取組内容	◆ 一課一改善及び職員提案制度をより活性化させるため、一課一改善と職員提案制度を統合し、部、課、グループ、個人での提案を可能とする。				
実施年度	H24	H25	H26	H27	H28	
計画	○ 実施手法の改善 ○ 実施				→	
26年度までの実施状況等	<p>◆ 職員提案制度と一課一改善を統合し、「職員のかえ」として職員から自由な発想による事務の改善提案を求め、各部で業務改善を執行する「Grow UP チャレンジ制度」を新たに創設し、平成24年度は27件、25年度は26件、26年度は17件を実施した。</p> <p>【平成24年度】</p> <p>◆ 金賞 ……保健福祉部 「Maybeシートでみんなが支援者」……「Maybeシート」の活用による権利侵害の未然防止 銀賞 ……市立芦屋病院 「Project-One」……新病院の器にふさわしい内容を実現するための22項目の取組 銅賞 ……総務部財務担当 「収税・債権管理連合」……他自治体のニュースを職場で共有</p> <p>【平成25年度】</p> <p>◆ 金賞 ……市民生活部 「川柳 De 改善隊」……窓口等の市民対応の向上 銀賞 ……都市建設部 「Bond of the disaster prevention」……チーム力向上を目指す 銅賞 ……市立芦屋病院 「ホスピタルフェスタ」……病院の取組を市民に紹介</p> <p>【平成26年度】</p> <p>◆ 金賞 ……市立芦屋病院 「医療安全川柳」……医療安全について院内全体で意識を持つこと 銀賞 ……都市建設部（都市計画・開発事業担当） 「都市建設部（都市計画・開発事業担当）」……各課窓口の業務案内表示の改良 銅賞 ……福祉部 「みんなの支援でサービス向上」……市民を「生活者」として支援できる職員になるために～「Maybeシート」でみんなが支援者～</p>				26年度までの進捗状況	実施（進行中）

政策立案型プロジェクトチームの設置						
31	所管課	政策推進課				
	取組内容	◆ 組織の活性化と行政運営の効率化を図るため、プロジェクトチームの設置のあり方を見直す。				
	実施年度	H24	H25	H26	H27	H28
	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 規程の改正</li> <li>○ 検討課題の抽出・設定</li> <li>○ PTメンバーの募集及び設置</li> <li>○ PTによる課題検討、実施</li> </ul>				
26年度までの実施状況等	<p>【平成24年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 昭和47年に制定された「芦屋市プロジェクト・チームの設置に関する規程」に替わり、行政運営の効率化、職員の活性化や人材育成も含めて目標に掲げ、職員主導のボトムアップ方式を取り入れた「芦屋市プロジェクト・チームの設置に関する要綱」を平成24年10月1日付けで制定、施行した。</li> </ul> <p>【平成25年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 平成25年11月に学校給食費の公会計化にかかるプロジェクトチームを設置した。</li> </ul> <p>【平成26年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「学校給食費の公会計化に係るプロジェクト・チーム」から平成26年7月に報告書が提出され、それに基づき平成27年度実施に向け、システム導入などの準備を進めた。</li> <li>◆ 平成26年6月に「固定資産台帳の整備に係るプロジェクト・チーム」を設置（期間延長）</li> <li>◆ 平成26年7月に「芦屋市国土強靱化地域計画の策定に向けてのプロジェクト・チーム」を設置し、平成27年3月に報告書提出</li> <li>◆ 平成26年10月に「生活困窮者自立支援事業推進に係るプロジェクト・チーム」を設置し、平成27年3月に報告書が提出され、平成27年4月からの制度実施に活用している。</li> </ul>				26年度までの進捗状況	実施（進行中）
人材育成基本方針及び実施計画の見直し						
32	所管課	人事課				
	取組内容	◆ 人材育成推進体制を見直すとともに、人材育成実施計画の計画期間が終了する前年度までに人材育成基本方針の見直しを行う。また、見直した基本方針に基づき、新たな実施計画を策定する。				
	実施年度	H24	H25	H26	H27	H28
	【人材育成基本方針】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人材育成推進体制の見直し 人材育成基本方針の見直し</li> </ul>				
	【人材育成実施計画】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人材育成実施計画(H24年度～26年度)の推進及び進行管理</li> </ul>				
			○ 実施		○ 人材育成基本方針の見直し	
			○ 人材育成実施計画(H24年度～26年度)の総括・検証 ○ 人材育成実施計画(H27年度～29年度)の策定	○ 人材育成実施計画(H27年度～29年度)の推進及び進行管理		
26年度までの実施状況等	<p>【平成24年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 人材育成推進本部ほかの推進体制、基本方針見直しに向けた考え方を整備した。</li> </ul> <p>【平成25年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 人材育成推進本部会議を3回、推進委員会を9回開催し、基本方針を策定した。策定に当たっては、職員アンケートを実施するほか、庁内掲示板で職員意見を募集した。</li> </ul> <p>【平成26年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 人材育成推進委員会を4回、意見交換会を1回実施し、人材育成実施計画（平成27～29年度）を策定した。</li> </ul>				26年度までの進捗状況	実施（進行中）

17 人事評価の拡充	人事評価の全職員への導入					
	所管課	人事課				
	33 取組内容	◆ 平成23年11月に実施した人事評価に係るアンケート結果を多角度から分析・検証し、納得性を高めた上で、全職員への導入を進める。				
	実施年度	H24	H25	H26	H27	H28
	計画	○ 人事評価に係るアンケート結果から、改善点の整理と試行導入について検討	○ 課長補佐級以下の職員に対して試行導入の実施		○ 全職員に対して人事評価制度の本格導入の実施	
	26年度までの実施状況等	◆ 平成25年4月から保育所を除く係長級以上の職員を対象に試行を開始し、新たに人事評価を試行する対象となる職員に説明会を実施した。 ◆ 平成26年度は、全職員への導入に向けて職員団体への説明を行い、課長補佐・係長級及び保育所を除く一般職員を対象に試行を開始した。				26年度までの進捗状況 実施（進行中）
	人事評価の有効活用					
	所管課	人事課				
	34 取組内容	◆ 人事評価結果に基づいた処遇管理に係る取組状況等の情報収集を行い、課長級以上の職員について人事評価結果を処遇管理面及び昇任・昇格へ反映する。				
	実施年度	H24	H25	H26	H27	H28
計画	○ 人事評価結果の検証及び研修計画への反映 ○ 人事評価結果を処遇管理面へ反映させることに対する課題及び解消策を検討	○ 人事評価結果を処遇管理面及び昇任・昇格へ反映				
見直し計画		○ 人事評価結果を処遇管理面へ反映		○ 人事評価結果を昇任・昇格へ反映 ● 法改正に伴う、人事評価制度の活用についての検討		
26年度までの実施状況等	◆ 平成23年度までは評価結果が50点未満の者について次年度の勤勉手当を5%減額。また、平成24年12月期から90点以上の者について勤勉手当を5%増額する規定を設けた。				26年度までの進捗状況 実施（進行中）	
新たな要素・課題	◇ 平成26年5月の地方公務員法の一部改正に伴い、平成28年度から法の趣旨に基づく人事評価制度の実施が義務付けられたことから、評価の活用方法などの検討が必要である。					

18 多様な人材確保	新規採用のあり方の見直し						
	所管課	人事課					
	取組内容	◆ 有為な人材を確保できるよう、採用試験のあり方を見直す。					
35	実施年度	H24	H25	H26	H27	H28	
	計画	○ 第一次試験の専門試験について必要性を検討 ○ 管理監督者による面接試験の導入を検討（構成員、面接方法、実施時期等）	○ 採用試験方法の見直し				
	26年度までの実施状況等	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 人事課の現職員及びOB職員が大学等を訪問し、採用案内及びポスターの掲示の依頼及び募集内容について説明を行った。</li> <li>◆ 職員選考委員会において、教養試験の内容変更及び事務職に係る専門試験の廃止を決定し、平成25年度試験実施分（26年4月採用者）より新方式により採用試験を実施した。 平成25年度 事務職 応募者 314人 平成26年度 事務職 応募者 528人</li> <li>◆ 全職種において、面接試験を1回から2回に増やし、面接の回数及び人数を増やすことでより人物重視の試験方法へと見直しを行った。</li> <li>◆ 従来の部長級面接を2次面接と位置付け、1次面接試験は課長級・係長級職員による面接を導入した。また、一般技術職等の1次面接には同職種の課長級を、保育職の1次面接や保育現場を想定した実技試験には保育所長を面接官とし、面接官には研修を実施した。</li> </ul>				26年度までの進捗状況	実施（進行中）
19 再任用職員の有効活用	再任用職員が活躍する仕組みづくりの検討						
	所管課	人事課					
	取組内容	◆ 再任用職員の効果的配置と再任用職員及び配属先職場の意識改革を図る。					
36	実施年度	H24	H25	H26	H27	H28	
	計画	○ 再任用職員の効果的配置の検討					
	26年度までの実施状況等	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 平成24年度には全再任用職員を対象としたヒアリングを実施した。また、平成24年度以降は、新規の再任用希望者全員に任用前の事前面接を実施した。</li> <li>◆ 平成24年度以降、再任用職員を対象に、再任用の役割を再認識し組織の活性化のために働くことを目的とする研修を行った。</li> <li>◆ 芦屋市高齢期雇用検討委員会を設置して定年退職後の職員の高齢期雇用のあり方を検討し、平成26年度から再任用を希望する職員については、フルタイム職を基本に、任用級は3級（行政職給料表及び技能職給料表適用者）で再任用することとした。</li> </ul>				26年度までの進捗状況	実施（進行中）

20 危機管理 マネジメント の強化	危機管理マネジメント体制の強化への取組					
	所管課	市長室 人事課				
	取組内容	◆ 職員の危機意識を醸成させるため、実践的危機管理研修（体験型）を実施する。 ◆ 内部統制や事業継続計画による組織マネジメント体制の強化に取り組む。				
	実施年度	H24	H25	H26	H27	H28
	37 計 画	【危機管理】				
		○ 危機管理研修の実施	○ 各課危機認識度調査の実施			○ 各課危機認識度調査の実施
○ 危機管理各課マニュアルの見直し						
○ 接遇・クレーム対応集の作成						
【内部統制】						
○ コンプライアンス基本指針の作成						
○ 内部統制の整備・運用						
○ 内部統制研修の実施						
【事業継続計画】						
	○ 事業継続計画研修の実施	○ 危機発生時における各課優先業務の洗い出し		○ 事業継続計画（案）の策定		
見直し計画				○ コンプライアンス基本指針の作成		
				○ 内部統制の整備・運用		
26年度までの実施状況等	◆ 【人事課・市長室】 ・新任職員に対し、危機管理研修及びビジネスマナー研修を行っている。また、平成24年度には接遇指導者養成研修に職員を派遣している。 ・平成24年度から、「課長職としての危機管理」「新型インフルエンザ対応」「クレーム対応と危機管理」「内部統制」「事業継続の考え方」「通常業務における危機発生時の初動対応」等の研修を実施している。 ・平成25年度は他市での庁舎放火事案を受け、他課との連携により実践的な訓練等を実施した。  ◆ 【市長室】 ・平成25年7月にクレームに対する共通マニュアルを作成した。 ・事業継続計画については、平成24年度以降研修を行うとともに、芦屋市地域防災計画の改訂に伴い、平成25年度に庁内全ての部署に優先すべき業務と必要な資機材等の調査を実施した。 ・平成26年度は、近年増加傾向にある自然災害や日常業務における危機事象について、初動対応や緊急記者会見等の実践研修を3回実施した。				26年度までの進捗状況	一部未実施

Ⅲ 市民から信頼される行政

① 住民サービスの向上

21 子育て支援の充実策	子ども・子育て新システムの導入に向けての検討					
	所管課	子育て推進課 教育委員会管理課 関係各課				
	取組内容	◆ 子ども・子育て新システムの導入に向けて、内容及び今後の動向を踏まえ、子ども子育て検討会議（仮称）の設置及び本市の実情に即した『新システム事業計画』（仮称）を策定し実施する。				
実施年度	H24	H25	H26	H27	H28	
計画	○ 新システムの調査・研究及び導入に向けた課題整理	○ 子ども子育て検討会議（仮称）の開催 ○ 住民意向調査の実施	○ 新システム事業計画（仮称）の策定	○ 新システム事業計画に基づく子ども・子育て施策の段階的实施		
26年度までの実施状況等	◆ 【子育て推進課】 【平成24年度】 ・ 8月に子ども・子育て支援新制度に係る関連3法が成立し、市においては平成27年4月の本格実施に向け作業を進めている。 【平成25年度】 ・ 6月に芦屋市子ども・子育て会議を設置し、年度末までに4回の会議及び部会を開催するとともに、10月には市民アンケートを実施した。 【平成26年度】 ・ 子ども・子育て会議を7回開催し、子ども・子育て支援事業計画の策定に集中的に取り組んだ。 ・ 市民への周知として、出前講座2回、計画の中間まとめに関する説明会6回、シンポジウム1回を開催した。 ・ 中間まとめのパブリックコメントを実施した。 ◆ 【子育て推進課・教育委員会管理課】 【平成26年度】 ・ 合同で、新制度移行後の幼稚園・保育所への入園・入所に関する説明会を6回開催した。 ・ 調整会議を30回開催し、情報共有と意思統一を図った。				26年度までの進捗状況	実施（進行中）

22 地域活力の向上

地域課題の解決の仕組みづくりの検討

所管課 市民参画課 地域福祉課

取組内容 ◆ 地域の課題の把握や解決を図るため、自治会、NPOをはじめ各種団体と連携を図り、活力ある地域づくりに取り組む。

実施年度	H24	H25	H26	H27	H28
39 計画	<b>【市民参画課】</b>				
	○ 自治会をはじめ各種団体の後継者及びボランティアコーディネーター養成のための講座の実施				
	○ 地域の課題解決に向けた自治会、NPO、ボランティア団体等との協議会の設置に向けた検討	○ 地域の課題解決に向けた自治会、NPO、ボランティア団体等との協議会の設置	○ 地域の課題解決に向けた自治会、NPO、ボランティア団体等との協議会での協議		
	○ 市民参画協働推進計画の見直し				
<b>【地域福祉課】</b>					
	○ (仮称) 芦屋市地域福祉計画推進評価委員会の設置(要綱)				
	○ (仮称) 地域福祉アクションプログラム推進協議会の設置			○ 第3次地域福祉計画策定のための市民会議設置	○ 第3次地域福祉計画の策定委員会を開催
	○ 『地域福祉計画』の推進及び進捗評価				

26年度までの実施状況等

- ◆ **【市民参画課】**  
**【平成24年度】**
  - ・自治会等の各種団体の後継者及びボランティアコーディネーター養成講座の実施 延べ91名が出席。
  - ・地域の課題解決や発展のため、市と協働で自治会とNPOの代表が、協議体「地域ひろば（地域の協議の場）」と「市民ひろば（全市民の協議の場）」、「話し合いの場（市との協議の場）」の設置を検討した。
  - ・市民参画協働推進計画の見直しについて、市民参画協働推進会議で審議**【平成25年度】**
  - ・自治会等の各種団体の後継者及びボランティアコーディネーター養成講座の実施 延べ82名が出席。
  - ・「地域ひろば」を設置し、延べ105名が出席。内容：地域課題解決の仕組みづくり、平時の見守りを含む災害時要援護者支援について、居場所づくりについて等を協議
  - ・「第2次市民参画協働推進計画」策定の参考とするため、参画と協働についての意識・行動調査を行った。**【平成26年度】**
  - ・自治会等の各種団体の後継者及びボランティアコーディネーター養成講座の実施 延べ31名が出席
  - ・「地域ひろば」及び「市民ひろば」を開催し、それぞれ延べ227名、75名が出席
  - ・市民参画協働推進会議、ワークショップ、パブリックコメント等を実施し、平成27年3月に「第2次市民参画協働推進計画」を策定した。
- ◆ **【地域福祉課】**
  - ・平成23年度末に策定した「第2次芦屋市地域福祉計画」計画推進のための取組として、①「地域福祉計画推進評価委員会」の設置 ②各々の「実施プラン」づくりの推進 ③「地域福祉アクションプログラム」の推進 ④地域福祉計画推進本部における取組の推進を掲げ、平成24年度から計画の推進を行った。

26年度までの進捗状況

実施（進行中）



【平成24～26年度】

- ・「地域福祉計画推進評価委員会」を設置し、計画の点検・評価を行った。
- ・各種イベント、出前講座等において地域福祉計画の啓発を行った。

【平成24年度】

- ・「地域福祉アクションプログラム推進協議会」を設置した。

【平成25年度】

- ・ベンチプロジェクトの取組として、浜風町バス停、茶屋之町桜通り、JR芦屋駅ペDESTリアンデッキにベンチを設置した。
- ・中学生向けの地域福祉計画概要版を作成し、市内中学2年生に配布した。

【平成26年度】

- ・ベンチプロジェクトの取組として、潮芦屋地区にベンチを設置した。
- ・「いのちまもるあしや～減災リーフレット～」を作成
- ・保健福祉フェアにおいて、「助け上手・助けられ上手で災害に強いまちづくり～地域福祉で備えよう～」をテーマに防災活動に取り組む地域の方からの実践報告の機会を設定し、111名が参加

23 大学等との  
大共の  
同事  
実の  
業  
施

産官学共同事業の拡大																
所管課	政策推進課 関係各課															
取組内容	◆ 外部の視点として民間企業や大学等といった研究機関の意見や感覚を取り入れ、行政の研究能力や経営能力の向上を図るため、連携できる分野について調査研究した上で、拡大して実施する。															
実施年度	40															
計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共同研究分野の検討・発掘</li> <li>○ 大学との意見交換</li> <li>○ 民間企業との意見交換</li> <li>○ インターンシップの受入拡大</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 選定した項目について大学(企業)と共同実施方法の検討・実施</li> </ul> </td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>見直し計画</td> <td></td> <td>○ 企業と共同実施方法の検討・実施</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	H24	H25	H26	H27	H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共同研究分野の検討・発掘</li> <li>○ 大学との意見交換</li> <li>○ 民間企業との意見交換</li> <li>○ インターンシップの受入拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 選定した項目について大学(企業)と共同実施方法の検討・実施</li> </ul>				見直し計画		○ 企業と共同実施方法の検討・実施		
	H24	H25	H26	H27	H28											
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共同研究分野の検討・発掘</li> <li>○ 大学との意見交換</li> <li>○ 民間企業との意見交換</li> <li>○ インターンシップの受入拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 選定した項目について大学(企業)と共同実施方法の検討・実施</li> </ul>															
見直し計画		○ 企業と共同実施方法の検討・実施														
26年度までの実施状況等	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 【環境課】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境マネジメントシステムの円滑な運用を図るために実施する研修や内部監査等において、京都精華大学の准教授及び学生が講師や研究員として参加している。</li> <li>・市民マナー条例の本質や理念を、よりわかりやすく親しみやすく伝えることを目的に、神戸芸術工科大学まんが表現学科に協力いただき、学生が現地取材等も行った上で、啓発漫画チラシを制作し、3月に新聞折込（6社計35,150部）にて市民へ配布した。</li> </ul> </li> <li>◆ 【人事課】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学等学生受入研修（インターンシップ制度）により、平成24年度は4人、25年度は3人、<u>26年度は2人の大学生を受け入れた。</u></li> </ul> </li> <li>◆ 【市立芦屋病院】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度は、大学等学生受入研修により、医師実習9人、看護師実習122人、薬剤師実習23人、理学療法士実習4人、管理栄養士実習10人の学生を受け入れた。</li> <li>・平成25年度は、大学等学生受入研修により、医師実習15人、看護師実習123人、薬剤師実習33人、理学療法士実習5人、管理栄養士実習12人、臨床検査技師実習2人、ソーシャルワーカー実習3人の学生を受け入れた。</li> <li>・平成26年度は、<u>大学等学生受入研修により、医師実習15人、看護師実習93人、薬剤師実習20人、理学療法士実習5人、管理栄養士実習14人、臨床検査技師実習3人の学生を受け入れた。</u></li> <li>・その他、各種研修会等の実施で大学等からの講師派遣により連携を図った。</li> </ul> </li> <li>◆ 【打出教育文化センター】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度に、体育科において、教師力向上事業「授業力アップ！チャレンジ！」研修を、奈良教育大学の准教授及び学生と連携して、授業研究を12回実施した。若手教員の育成と、子供の動きと教師の働きかけの関係性についての研究を深めることにつながった。</li> <li>・平成26年度には、算数科において、<u>近大姫路大学の講師と連携し、教師力向上に取り組んだ。授業に入っただき、算数科における言語活動の広げ方を研究した。</u></li> </ul> </li> <li>◆ 【地域福祉課】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度から生活困窮者対策を含む、今後の行政サービスのあり方における「地域福祉推進の理解」や「トータルサポート担当の機能、求められる役割」について、日本福祉大学、神戸学院大学(兵庫県社会福祉協議会を含む)の調査研究対象となっており、実態把握を目的としたヒアリングを受け、意見交換を実施。</li> <li>・平成26年度は、生活困窮者対策を含む、今後の行政サービスのあり方における「地域福祉推進の理解」や「トータルサポート担当の機能、求められる役割」について、<u>神戸学院大学の教授を助言者として迎え、「生活困窮者自立支援事業推進に係るプロジェクト・チーム」の活動に協力いただき庁内連携の推進を目的としたガイドラインを作成、庁内職員との啓発を目的とした研修会を実施。また、日本福祉大学の教授と関係機関との意見交換を実施し、庁内連携ならびに関係機関との連携を目的とした協議の場も設定した。</u></li> </ul> </li> </ul>															
	<p>26年度までの進捗状況</p> <p>実施（進行中）</p>															

- ◆【防災安全課】
  - ・平成26年度に職員間で災害対応の知識・教訓を継承していくため、継承の新たな方法として民間コンサルティング会社と共同研究で「芦屋SHINE」を作成した。シミュレーション (Simulation)、ヒアリング (Hearing)、伝承・継承 (Inheritance)、拡大・拡張 (Expanding) の4ステップで、図上訓練形式の気づき、震災経験者からの聞き取り、継承すべき教訓の整理、未経験職員から未経験職員への引継ぎを盛り込んだものとした。
- ◆【政策推進課】
  - ・平成26年度は阪神・淡路大震災20周年事業において、県立芦屋高等学校ボランティア部、芦屋学園高等学校ボランティア部と連携し、阪神・淡路大震災の経験と教訓の継承及び防災の取組を行い、今後も様々な取組で共同できる関係性を構築した。また1.17あしやフェニックス基金助成について、大学生等の活動への助成条件を緩和すると同時に地域への還元を新たに条件とすることで、大学生と行政、地域との協働の素地を作った。大学生等のグループによるフェニックス基金助成金利用が平成26年度中に1件あった。

24 窓口業務の充実に係る実施

繁忙期の土曜開庁・時間の延長

所管課 政策推進課 窓口所管課

取組内容 ◆ 市民の多様なライフスタイルへの対応や、市民サービスの向上のため、3月・4月・年末等、繁忙期における土曜開庁・平日時間延長等を検討・実施する。

実施年度	H24	H25	H26	H27	H28
計画	○ 年末及び繁忙期の土曜開庁・平日勤務時間延長の検討及び実施				

26年度までの実施状況等

- ◆【政策推進課】
  - ・市民サービスの向上策として年末、年度末、年度始めに本庁舎の休日一部開庁を実施するとともに来庁者アンケートを実施改善につなげている。
  - ・来庁者数
 

24年12月29日 (土)	110人	25年3月30日 (土)	102人	25年4月6日 (土)	70人	合計	282人
25年12月28日 (土)	164人	26年3月29日 (土)	107人	26年4月5日 (土)	76人	合計	347人
26年12月28日 (土)	140人	27年3月28日 (土)	65人	27年4月4日 (土)	76人	合計	281人
- ◆【高齢介護課】
  - ・高齢者バス運賃割引証のICカード交付のため、土日も窓口を開設した。  
26年3月29日 (土)～4月25日 (金) まで (土日含む) (交付枚数：10,036枚、うち土日交付枚数：1,980枚)
- ◆【市民課】
  - ・確定申告の時期に合わせ、毎年2月末～3月上旬のうち1～2回、土曜日に住基カード及び公的個人認証サービスの受付を行った。
  - ・受付数
 

25年2月23日 (土)	4人	3月9日 (土)	4人	26年3月1日 (土)	17人
27年3月7日 (土)	14人				
- ◆【子育て推進課】
  - ・児童扶養手当の現況届出期間 (毎年8月中旬の2週間) の内、土日も各1日づつ窓口受付を行った。
 

24年度	期間内受付件数502件のうち、8月12日 (日) 47件、18日 (土) 31件
25年度	期間内受付件数493件のうち、8月17日 (土) 30件、25日 (日) 38件
26年度	期間内受付件数458件のうち、8月16日 (土) 22件、24日 (日) 34件

26年度までの進捗状況

実施 (進行中)

25 多様な納付手段の導入	コンビニ収納の導入						
	所管課	会計課 収納事務所管課					
	取組内容	◆ 阪神間各市の導入状況等も踏まえ、コンビニ収納とマルチペイメントを導入する。なお、収納システムの更新時に併せてコンビニ収納とマルチペイメントへ対応したシステムの構築を行うことにより導入経費を抑える。					
42	実施年度	H24	H25	H26	H27	H28	
	計画	○ 収納システムの構築 (H26年1月本稼動) ○ コンビニ収納及びマルチペイメント費目の検討	○ コンビニ収納代行業者選定	○ コンビニ収納委託契約 ○ コンビニ収納及びマルチペイメントの導入			
	26年度までの実施状況等	<p>【平成24年度】</p> <p>◆ コンビニ収納等を対象とし、課税課や保険課と実務上の課題を整理しながら、住民情報システム更新に合わせた開発スケジュールを調整し、25年1月に総合公金収納システム開発業者を決定し契約した。</p> <p>【平成25年度】</p> <p>◆ 関係課によるプロジェクト進捗会議を開催しながら、システム開発を完了した。</p> <p>【平成26年度】</p> <p>◆ 個人市県民税（普通徴収）、固定資産税・都市計画税、軽自動車税、国民健康保険料及び後期高齢者医療保険料（コンビニ収納のみ）について、コンビニ収納及びペイジー収納を実施した。</p> <p>平成26年度（4月～3月）のコンビニ収納の実績は、延べ件数41,936件・収納額1,120,392,296円で、ペイジー収納の実績は、延べ件数33,802件・収納額1,774,903,506円であった。</p>				26年度までの進捗状況	実施（進行中）

## ② 透明性の向上

26 開かれた情報提供	適切な情報公開の徹底						
	所管課	文書法制課					
	取組内容	◆ 情報公開条例・個人情報保護条例の手引を改訂し、積極的な情報公開に努めるとともに、公開方法の充実を図る。					
43	実施年度	H24	H25	H26	H27	H28	
	計画	○ 情報公開条例・個人情報保護条例の手引の改訂 ○ 積極的な情報公開の実施 ○ 公開方法の充実の検討・実施 ○ 行政情報コーナーの配架、配置、資料の充実等について検討・実施					
	26年度までの実施状況等	<p>◆ 情報公開・個人情報保護条例の手引きの改訂を行った。資料「情報公開条例と個人情報保護条例に関する事務」「公文書公開・個人情報開示の取扱い一覧」を作成し、公開等について適切な判断に努めるよう周知した。</p> <p>◆ 情報公開・個人情報保護について、新任職員研修を実施した。情報公開・個人情報保護制度の概要と実務について、研修を実施した。</p>				26年度までの進捗状況	実施（進行中）

分かりやすい情報発信

所 管 課 広報国際交流課 関係各課

取 組 内 容 ◆ 市民が行政情報を容易に活用できるよう、ホームページの更新や広報紙の充実など、住民ニーズに応じた情報提供のあり方について検討する。

44

実 施 年 度

H24

H25

H26

H27

H28

計 画

- ホームページの更新を積極的に  
行う取組の検討
- 広報研修の充実
- 市民アンケートの実施

- 市民便利帳の更新

26年度までの  
実施状況等

- ◆ 【広報国際交流課】
  - ・ 広報紙については、イラストを多用するなど、分かりやすい紙面となるよう取り組んだ。
  - ・ 平成24年度から広報あしやを阪神芦屋駅南自転車駐車場に配架するほか、平成26年度には市内4箇所のコンビニにも配架した。
  - ・ ホームページについては、アクセシビリティの向上や、各課が充実したページを公開できるよう、CMS研修を実施した。「探しやすい」の向上のため、トップページ上に「防災・減災情報」や「芦屋病院」のバナーボタンを設けるなどの工夫を行った。
  - また、平成27年2月にリニューアルし利用者の立場に立った構成でページの再構築を行い「見やすさ」、「探しやすい」、「使いやすさ」への対応をより強化した。さらにタブレットやスマートフォンに対応した画面が自動的に表示できるようにした。それに伴いCMS研修も対象者を作成者と承認者に分けて計22回開催し、延べ421人が受講した。
  - ・ 平成25年4月からサンテレビの文字データ放送「まちナビ」の運用を開始した。
  - ・ あしやガイドマップを改訂するとともに、市民便利帳の全戸配布を実施した。
  - ・ 外国人住民への情報提供を充実させる取組のひとつとして「やさしい日本語」の活用についての職員研修を実施した。
  - ・ 総合計画後期基本計画策定過程での市民アンケートにおいて、情報発信について意識調査を行った。広報あしやへの満足度は58.1%、市ホームページの満足度は49.5%であった。
- ◆ 【広報国際交流課・防災安全課】
  - ・ 外国人住民向けに「あしや防災ガイドブック（4言語併記版）」を発行し、希望者に配布するとともに、主な公共施設にも設置した。
- ◆ 【広報国際交流課・政策推進課】
  - ・ 庁議議題には、まちナビ、ホームページの取り扱いを明記し、意識付けを行った。
- ◆ 【政策推進課】
  - ・ 集会所トーク資料について、平成25年度より、一層見やすくなるようグラフや写真などを多用し、市の主要施策について、分かりやすい発信に努めた。

26年度  
までの  
進捗状況

実施（進行中）

